

シリーズ

# JIIA Activity Report

日本インダストリアルイメージング協会 活動報告

JIIA (Japan Industrial Imaging Association) が2006年3月に発足して以来、本年で設立7年目を迎えます。周知のごとく、JIIAは産業用の画像処理技術の規格標準化を世界的に推進している協会です。ここではJIIAの役職者の皆様にご登場いただき、設立の経緯や各分科会の活動について、インタビュー形式で紹介していきます。今回は、運営委員会 委員長 渡邊 雅仁氏のご登場です。

**第13回** 運営委員会 委員長 渡邊 雅仁氏 (アディメック・エレクトロニック・イメージング(株))  
インタビューア: JIIA会員 岩田 節子 (株)マイクロ・テクニカ)

**岩田** 今日は運営委員会の委員長である渡邊さんにお越し頂きました。統計分科会、知財分科会、広報分科会、この3つをまとめて運営委員会と呼んでいます。どちらかというと事務局とともにスタッフ的な仕事が多いのでしょうか？

**渡邊** そうですね。

**岩田** 今日は、委員長としてのお立場と、その3つの分科会の役割をお話いただければと思っています。

**渡邊** 正直言って運営委員会そのものは黒子のようなものです。具体的に説明できるような活動はありません。JIIAの活動をやっていく上で、その隙間を埋めるといって変な言い方ですが、運営そのものを回していく事務局、その事務局をサポートする役割と言えます。

**岩田** 私もJIIA発足当時に理事をやらせていただいて、こんな分科会を作りましょうという話し合いを行いました。JIIAの成り立ちからいっても、各技術分科会のメンバーに入りたいという人は多いのですが、統計・知財・広報の3つの分科会に人を出すという会社さんが少なかったですね。

**渡邊** 広報についてはある意味わかりやすいです。実際の活動も、日々のホームページを更新したり、ニュースリリースを出したり。メディアの方々にも入って頂いていますので、やる事が明確で人も集まりやすい。一方、統計については大事なのですが、まとめたものがないと海外に発信していきません。JIIAのメンバーは基本的にボランティアですし、元々は標準化を進めることが大

前提ですので、そのために集まった方々に統計をやってくださいというのは難しいですね。その点、児玉さんが一生懸命やったださって、本当に有り難いです。

**岩田** 統計はずっとファーストの児玉さんがやったださっていて、まとまった発表も児玉さんがやったださるので、本当に有り難い。数字で表れるものは、JIIAのメンバーにも、外からJIIAを見ている方にも発信できる材料ではありますね。

**渡邊** そうですね。日本の位置づけを知る意味でも大事です。現在はもう国内だけの仕事というのはありえません。その中で日本の今の状況はどうか、日本を入れるとどういう仕事ができるのかを、海外から見てわかるように情報発信できないと、外されてしまいます。もともとJIIAを作ったときには、これだけ日本に画像関係のメーカーがあり、市場がそれなりにあるのにもかかわらず、規格は海外発のものばかりでした。ローカルや自前で作るということはありませんでしたが、まとまった規格を日本から作っていくということがなかったので、それが徐々に回り始めてきたという感じでした。

**岩田** JIIAが発足する前年の2006年、シュツットガルトのVisionShowに行ったのですが、そこでAIA (Automated Imaging Association) とEMVA (European Machine Vision Association) のマーケティングスタディの部屋があつて、両方に呼んでもらえたのです。そこでマシンビジョンにおいて彼らがカバーしている画像関係のマーケットに何%のシェアがある

か、どれくらいの金額を売り上げているのかという話がありました。例えばIEEE1394とアナログのシェアや、画像入力ボードと画像処理ボードのシェアがどのくらいかについて発表していました。聞かせてもらった私たちは参考になりましたが、その一方で、EMVAとAIAが持っているマーケットシェアと日本自体が持っているシェアの内訳がだいぶ違うのを感じました。その半年後にEMVAのカンファレンスで、JIIAが取れた範囲内の統計でいいから、マーケティングスタディをやってくれと頼まれて開催しました。それはそれでEMVAの人には衝撃的で、自分たちのマーケティングと違うし、使われている機器も違ったようです。そういったことをわかってもらうためにも統計は必要ですし、これから海外発信に力をいれていくためにも調査した物が必要になりますね。

**渡邊** とても大事なことです。

**岩田** 統計の方である程度まとまった数字がでているのがカメラとボード関係です。これからは、できれば画像に関する照明や、日本から海外への輸出货量などの統計も同時にしたいと思っています。ただし、数字があってもルールにそぐわない統計データは公表できません。つまりメーカーが特定できるような数字は出せません。そこは難しいのですが、何らかの形で情報としてアバウトでもいいので提供できればいいと思っています。正攻法としてはできるだけ多くのデータを集めるというのが第一ですが。

**岩田** 私は照明の統計には興味ありますね。また、カメラ関係はインタフェースも多いですし、解像度の分類もあって、そのあたり細かくやっていくと大変ですね。ただ、基本的な問題としてJIIAが「こういう分類で統計をとります」と会員の方にも願ひしても、会員の方の会社はその分類で統計をとっていないところもありますよね。わざわざJIIAに提出するために出荷台数とか出荷金額の数をやり直すとなると、特にカメラメーカーは種類やつながるインタフェースも多いので大変ですね。

**渡邊** トレンドをみていくときに解像度という基準はどうしても必要になってくるので、どうしても出したいですね。私どももそうですが内容に

合わせて集計をしています。そこは自分のためになると考えていただくといいのですが。

**岩田** 私が営業をする上でも、インタフェースや解像度はお客様によく聞かれるところです。まずワークありきで、こういった画像処理をするので、カメラはこうで、解像度を決めて、解像度が決まったら、次はインタフェースで、という決めていく手順はあるのですが、皆さんそれなりに「今、売れているカメラはどういうレベルなの？」と気になるようで。単にデジタルかアナログかでもないし、エリアかラインかという分類だけではすまされないですね。

**渡邊** それぞれご商売をされているなかで数字的な裏打ちは欠かせませんね。今後どういう具合にやっていくべきなのかを考える一つになりますから。

**岩田** こうした統計を何年か続けていけば傾向が見えますし、さらにEMVAやAIAと連動させた形で取れるようになるといいですね。日本だけで仕事が完結することはないので、海外の様子を見ながら、いったいどういものが売れているのか、使われているのかを見ることができるといいですね。

**渡邊** EMVAもAIAもビジネスカンファレンスのなかで情報交換をして、それをフィードバックしています。EMVAもAIAもそういった情報が欲しいし、当然JIIAの会員さんたちにも必要です。そういう意味ではいい形を作ってきているのかなと思います。EMVA, AIA, JIIAの3つの協会でG3という枠組みを作ったわけですが、現実的に今、韓国、中国の協会とG3を拡大しようという話がでています。中国は協会がこれまで乱立していましたが今は1本化したようです。EMVAとAIAとJIIAは標準を実際に作っているわけですが、新しくできたところはまず協会を作ろうということになります。そして、展示会やセミナーをやっていこうという段階です。G3のような形は何年か先になるのかなとは



渡邊 雅仁氏

思います。インドや南米も市場がありますが、日本からそこに行くのか、そこの人たちが日本の物を使うのか、いろいろなパターンがあると思いますが、日本からものを出していくようにならないと駄目ですね。すべてが一つの大きい枠のなかで動き始めていますね。協会も国単位になっています。

**岩田** 統計も海外を視野に入れていますが、運営委員会のなかの知財分科会もそうですか？今、マーケットは世界に広がっています。日本のお客様向けに作った物も、実際は海外に行ったりします。JIIAのなかで生まれた新しい技術とか発想、規格の知財権はJIIAに帰属するというのを明確にするというのは当然ですが、知財分科会を作った当初、会員さんの中でもともと画像関係の特許をもっているメーカーの特許に絡むことをJIIAが規格する場合はどう整理するのかという、規約を作るのが大変だったのではないのでしょうか。私が聞いている中で知財で何か問題が起きたことはありませんが、今後は知財で何か起きたときにどうするのか対策を考える必要がありますね。中には、自分たちの技術情報やノウハウ、特許に関することを公開できないためにメンバーになれない方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

**渡邊** 現実的には知財そのものをポイントとして、それを公開する、あるいは規格化することによってメリットがある、もっと簡単に言うとJIIAの活動をすることによってメリットがある方々によって動くことになります。

**岩田** オープンにすることによって、メリットがでる会社しか会員にならないということですね。確かにその通りですね。

**渡邊** それだけの理由のある方々が集まらないとできません。それによって全体が大きくなるということも相乗効果としてあるので、やはり複数集まらないとできないことがあります。インタフェースなど特にそうですね。

**岩田** 極端なことをいうとカメラだけあっても駄目ですね。カメラメーカー独自のインタフェースを作ったところで、相手側がわからなければつながらない。

**渡邊** 知財というのは、そこで問題が起きたと

き、あるいは問題が起きる可能性があるときに、どうすればいいのか、ということ議論する場です。例えばCoaXPressみたいなものを規格化することになったときに、ロゴを登録しようとしても、世界中の地域ごとに様々な問題がでてきて、解決していくが必要になってきます。立ち上げの時には色々あったことは間違いないのですが、それ自体が阻害するのかということそうでもないもので、メリットのある方が集まって、集まることによってもっとメリットが生まれてくるのをサポートすることに尽きますね。

**岩田** そうですね。最初の頃は状況がよく見えないので、自分たちの会社のことは自分たちで守ろうということがありました。各分科会の技術屋さんにしてみれば、技術的な新しいことは吸収したいけど、自分たちのことはあまり出せないというのがあった。でも新しい物を作り上げていくにはそれぞれの持っている力を結集しないと作れませんし、普及していかないですね。知材に関しては、もともとAIAが持っているものに引っかからないかで、最初の頃は英文のメールを読み合わせして大変だった思いがありますが、これから中国、韓国に広がっていくと益々大変になりますね。

**渡邊** フォームに関しては、特にAIAはしっかりしています。

**岩田** 皆さんは英語の得意な方ばかりなのに、普段こういう言い方をしないでしょうという法律用語がでてきて、どうやって訳せばいいのか難しかったことがあります。

**渡邊** G3の枠組みを作った以上、英語での法的な言い回しがあるのでそこはきちりしなくてはいけないのですが、今後広く、国際的な取り決めになってくるのであればある程度わかりやすい表現でないといけないのではと思います。

**岩田** AIAの契約などの文書は特に難しいですね。



岩田 節子

**渡邊** 確かにAIA、EMVA、JIIAの3者の会議などで、JIIAが考えあぐねていると、EMVAがかみ砕いて説明して助けてくれる傾向があります。

**岩田** 3つめの広報分科会についてですが、ウェブサイトなど広報活動をやっているなかで、年に1回大阪でセミナーをやっていますね。関西のメンバーでなかなか分科会活動に参加できない方もいらっしゃいますし、JIIAのメンバーの方でなくても関西で話を聞きたいという方がいます。2012年は10月12日に、ネット・カンファレンス新大阪で開催しました。

**渡邊** 去年も同じ場所でやりましたが、新大阪の駅のすぐそばで開催しました。一般向けの告知をしてから会員でない方4~5人がすぐに申し込まれた。最新の話を知りたいということで、若い方がたくさん来ておられました。現状、東京までなかなか行くことができないということで、かなり遠方の方もいたようです。会員以外の方の人数ははっきり聞いていませんが、全体の申し込みとしては30名の枠で24名でした。JIIA関係者もいましたのでいっぱいでしたね。いろいろな規格の話が出ましたが、そのなかで「規格が新しくなっていったら将来、混乱しないのですか？」という話題がでて、たまたま佐久間副委員長の担当でしたので、フューチャースタндартフォーラムの活動についての説明を含め、非常にタイムリーな話ことができました。関西セミナーは統計の報告も含めて最新の情報を、会員だけではなく国内全般に届けられるという意味で非常に重要で、終わった後にこれは続けられないといけないという話になりました。

**岩田** 2012年はVisionShowやボストンの展示会にJIIAのブースを出しました。国内では春のVisionJAPANと画像センシング展、画像機器展にG3のブースを出して、そこでJIIAの活動を展示しているのですが、どうしても国内の展示会は関東だけになってしまいますね。関西や九州などに対してのPR活動や意見交換会が少ないので、関西セミナーをやる意味は深いと思います。逆に横浜の展示会などでは喋る側の時間が多くていろいろな意見を聞いていただく機会が少ない。でも関西だと20~30人なのでいろいろな意見を出してもらいやすいですね。

**渡邊** 相互のやりとりができるように。それは横浜も同じでそういう形でやれるといいのですが、実際はなかなか難しいですね。

**岩田** 横浜の展示会などではセミナー枠が50分で、聞く人が50人、100人くらいになって、一方的に喋って終わりみたいなどころがある。

**渡邊** コンテンツの問題もあつたりするのですが、できる限り意見を吸い上げられるようにできればいいなと思っています。

**岩田** 広報の活動としては、JIIAが発足した3年目くらいまでは会員を増やしたいというのがあって、メンバーを増やすための展示という感がありました。そのあと、海外にも発信するために一生懸命やってきました。まだ会員数は100を超えてはいませんが、海外の会員も含めると80位になりました。これからは中身を濃くするための広報活動になっていって欲しいと思います。

**渡邊** ホームページをもう少し整備しないとダメなと考えています。形としてはほぼでき上がっているのですが、もう少し皆さんの人に見て貰いたい。あとは英語版のほうは更新が遅れがちなのでそのへんが課題だと思っています。なるべくオンタイムで情報を伝えられるようにしたいですね。

**岩田** これから益々忙しくなるのは統計分科会ですね。

**渡邊** あと、規格を認証するというのを今年から始めていますので、それが大変です。

**岩田** それは運営委員会の中の仕事ですか？

**渡邊** 実作業は分科会がやるのですが、最終的には全部が絡むので運営委員会も関わってきます。認証そのものの作業は標準化委員会の各分科会がやって、その内容をもとに運営側が製品の登録をして、お金を頂くわけです。それで最終的にJIIAとしての認証書を発行することになります。ホームページを見ていただくと分かりますが、今、CoaXPressの製品が載っていますが、登録料を頂いています。物理層試験をする場合は、試験料を頂きます。例えばプラグフェスタを主催する場合、そのこと自体は分科会がやりますが、現実的な事務手続きは運営委員会が監督をします。

**岩田** やっとそこまできたということですね。プラグフェスタしかり、製品登録しかり、JIIAが主

体になって決めてきた規格に対し、これは適合していると証明できるようになったということですね。

**渡邊** ようやく規格作りから認証まで、一本線につながりました

**岩田** 6年半かけてようやくですね。

**渡邊** 多分2012年12月の段階で、10種類くらいは登録できるのではないのでしょうか。

**岩田** それはかなりの成果ですね。

**渡邊** 正式にJIIAが認定をして公表できる商品となることは一つの大きな成果だと思います。

**岩田** そうですか。感慨深いですね。今日はお忙しいところ本当に有難うございました。

問い合わせ先

日本インダストリアルイメージング協会 (JIIA)

〒153-0061 東京都目黒区中目黒2-10-15  
山手Kビル7F (株)シムコ内

TEL/FAX : 03-3716-3933

E-mail : info@jiiia.org

URL : http://www.jiiia.org/

# 光アライアンス

定価:2,000円/年間購読料:19,000円(12冊)

光技術を4つの基本アプリケーション(計測、加工・化工、伝送、情報処理)からとらえた実用的ガイドブックです。日々新製品が増える光部品、光機器・装置の製品動向を的確に迅速に伝えます。これから光分野を学ばれる方、現場サイド、技術者、経営に携わる方々に見逃せない技術誌です。

年間購読のお申し込みは **フリーコール 0120-974-250**

<http://www.nikko-pb.co.jp/>

日本工業出版(株) 販売課

本社 〒113-8610 東京都文京区本駒込6-3-26 TEL. 03 (3944) 8001 FAX. 03 (3944) 6826  
E-mail:sale@nikko-pb.co.jp